

ありがとう、和歌山

華 碧盛
教育学部 交換留学生 中国

和歌山との初めての出会いは紙の上だったと言えます。中国の大学で、先生は私に交換留学生として派遣する大学を紹介してくださいました。私は「和歌山」という文字を始めて見て、「和歌山」という言葉を初めて聞きました。なぜ自分はこの一度も聞いたこともない町に対して、言葉で言い表せないような親しみがわいたのか、自分でさえも分かりませんでした。

そして、実際の和歌山との「再会」は桜の満開の季節でした。留学の準備をした後、私は和歌山大学の交換留学生としての願いがかない、一年間の留学生活が始まりました。初めて国を出た私にとって、不安がありました。でも、それよりも、期待の気持ちの方が強かったと言えます。これまでの生活と異なった体験と人生に対する考えが出来るように頑張りたいと思っています。そういう気持ちを持っているからこそ、私は和歌山に足を踏み入れました。和歌山では、きれいな桜を見たり、真っ青な空から時々カラスの声が聞こえたりしました。車は順番に走っていて、きれいな道路は雨に打たれたようで、不思議だと思えます。

この町は紀州文化と呼ばれ、住んでいる人々はとても優しいです。彼らは笑顔で生活して、礼儀正しく普通の生活を送っています。彼らは自分なりの生活リズムでこの町を最もユニークな街にしています。それは、ここでの生活リズムは東京と大阪に比べるとそんなに早くなく、ゆっくりしていることが、この町をユニークにしていると思います。それでも、だらしない感じが全然ありません。だからこそ、そのリズムのおかげで、心に十分な時間を与えて自分の人生を考えることができます。



和歌山についての感動はそれだけではありません。和歌山の人々は、思いやりがあり、民間のボランティア組織はいつでもどこでも留学生の生活をサポートしてくださいます。それに、学校の先生や学生の組織は留学生のためにいろいろな活動を行ってください、私たち留学生が豊かな生活を送れるように支援してくださいます。どんな問題があっても、すぐ手伝ってくださいます。

和歌山は便利な町です。道端の自動販売機にしても、スーパーの自動的にお金を払う機械にしても、この町は人々の生活が便利になるために努力していると思います。また、和歌山の交通はとても素晴らしいと思います。例えば、バスや電車の時刻表はきわめて正確です。

この悠久な歴史を持つ元気な町の中を、私は自転車によく出かけます。

この健康的で環境にもよい自転車は、私にとって友達のような存在で、いつもあちこちに出かけています。自転車は、スピードがそんなに速くないので、この町のことがよく感じられます。ここでさまざまな人々に会いました。優しい先生達、可愛い友達、それに、道であった人々。

先日、私は授業で、初めて着物を試着しました。着物は、色鮮やかで美しい赤色に華やかな花の模様があって、柔らかくて繊細な感触がしました。それは私の留学生活で最も美しい思い出として、永遠に記憶に残るでしょう。

そして、私たちは積極的に和歌祭りに参加したり、ぶんだらの踊りを練習したりしました。今は、花火大会を期待して待っています。この町は私たちの成長を見守ってくれています。ありがとう、和歌山。

私たちにとって親しい町は、自分の頭で考えることを私たちに伝えてくれます。ここには、中国にいる家族や友達はいないので、もし問題があったら、まず自分で解決して方法を考えなければなりません。それに、私たちは知恵を絞って自分で決断して決定しなければなりません。この新しい環境で、私は、問題が起こったときに自分でそれを解決することを考える力が付きました。

だから、ありがとう、和歌山。

